

「平尾中学校の御八日踊り伝承活動の取組」

1. 学校名	長島町立平尾中学校
2. 学年・人数	1～3年生 33人
3. 日時・場所	(1) 練習の日時・場所 令和6年9月14日・18日 平尾中学校校庭 (2) 発表の日時・場所 令和6年9月29日 平尾中学校校庭 体育大会
4. 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事、伝統工芸品について	(1) 名 称 御八日踊り（ごようかおどり） (2) 由 来 永禄8年（1565年）、非業の最期をとげた島津常陸守忠兼の霊を慰めるため、踊りを奉納したのが始まりと言われている。毎年8月8日は長島全体が祭一色に染まる御八日踊りの日である。町内の各集落が種子島踊り、棒踊り、鐘踊り、傘踊りなど伝統の踊りを披露するが、平尾集落は種子島踊りを披露している。 (3) 構成等 「妙鉢」「カネ」「太鼓」、そしてシバを持って踊る役割の踊り手で構成される。「妙鉢」は祭りの先導役、シバは無病息災を祈って悪霊や害虫などを追い払うとされる。
5. 文化財伝承・活用の取組において地域との連携や工夫した点等	種子島踊りを継承していくために、地域と学校が協力連携している。地域行事としての校区内の神社での奉納とは別の機会として、総合的な学習の時間に地域の平尾郷土芸能保存会の方々を中心に歌と演舞を教えていただき、体育大会で種目の一つとして披露した。今後も継続して地域と連携して種子島踊りを伝承していける体制を整えていきたい。
6. 取組の様子（練習状況、発表の場等）	 地域の方が注目する中、体育大会で演技を披露
7. 感想・意見（参加児童生徒・保護者・保存会・教員等）	【生徒】 ・ 御八日踊りで種子島踊りをみんなで踊り、より長島の伝統にふれて、考える機会になった。 ・ この伝統的な踊りを次の人たちにつなげていかないといけないと、練習をして感じた。 ・ 練習では、小学生の見本にならないといけないと思った。 ・ 自分たちがしている御八日踊りをなぜやっているのかという疑問がなくなった。